『三錢。』
『其方は。』
『四錢五錢六錢……。』
『全で競り市やがナ。そしたら皆往くのやな。諾し〳〵。……其處でやなア。辨當やら何やら云ふてたら迚も相談が熟えん。俺いの思惑では各自家に有る晩菜物を此處へ持ち寄るのや。それをば風呂敷にでも包んで持て往かふと斯ふ思ふね。何でも拘めへん依つて持つといで……。』
『俺れとこは何も持つて往く樣な物有れへん。』
『サ何ふせ御互ひに氣の利いた物は無いわいナ。何でも宜えがナ。家に有り合はす物で辛抱するのや』
『そしたらかまうこでも宜かつたら、三枚程有るのん持て來うか。』
『宜かつたらとは何ふやいナ。お前等そんな贅澤な事云ふてるさかい頭が上らへんのや。此長屋でそんな美味い物喰てる家が有るかいナ。氣兼なしに持つといで』
『よしや……。さア此笊に入つたアる。喰べてや。』

『……こら何ぢやい。飯の焦げやがナ。……』
『左樣や。鹽氣が利かしたアる依て烏渡いけるで。』
『いや。お前先刻云ふたやろ。蒲鉾三枚……。』
『左樣や釜底三枚……。』
『何やかまぞこかいナ……。ヤヽこしい物言ひしやがつたナ。……お前とこは何ぞ有るか。』
『長い儘が鉢に一杯あるね。』
『長い儘て何や。……オイこら豆腐粕と違ふか。』
『左樣や。其品をきらすと云ふやろがナ。切らなんだら長い儘や。』
『全で判じ物やがナ。藤やん、お前とこは……。』
『無い事もないねが……　豪い氣兼ねナ……。』
『何云ふてんね。他の持て來てる物見んかいナ。かまぞこに長い儘や。何でも宜えがな。』
『そしたら鯉汁が少し有るのん持て來ふか。』
『豪いッ。流石は藤やん。喰てる物が違ふなア。鯉汁やなんて嬉しい物やつてるや無いか。結構々々早ふ持つて來て。……ナア藤やん。鯉汁は良えが土の釜に容れたり仕いないナ。銀鍋銅鍋と贅澤は云